



2025年12月15日

各 位

会 社 名 株式会社 梅の花グループ
代 表 者 名 代表取締役社長COO 鬼塚 崇裕
(コード: 7604 東証スタンダード市場)
問 合 せ 先 経理部長 徳永文生
(T E L 0 9 4 2 - 3 8 - 3 4 4 0)

2026年4月期第2四半期（中間期）業績予想値と実績値の差異に関するお知らせ

2025年6月16日に公表いたしました2026年4月期第2四半期（中間期）の連結業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2026年4月期第2四半期（中間期）（2025年5月1日～2025年10月31日）の連結業績予想値と実績値の差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	1株当たり中間純利益
前回発表予想値（A）	百万円 14,023	百万円 19	百万円 △101	百万円 188	円 錢 21.22
今 回 実 績（B）	14,056	△126	△252	△202	△22.89
増 減 額（B-A）	32	△146	△151	△391	
増 減 率（%）	0.2	—	—	—	
（ご参考） 前期第2四半期（中間期）実績 (2025年4月期第2四半期)	13,855	△133	△223	△166	△19.05

2. 差異の理由について

2026年4月期第2四半期（中間期）の連結業績につきましては、売上高は概ね予想並みで推移したものの、外販事業の利益率低下及び主要原材料のコスト増が重なったこと、テイクアウト事業において使用する米価が高騰したことが影響し、営業利益及び経常利益は予想を下回る結果となりました。この影響により、親会社株主に帰属する中間純利益も予想値を下回りました。

なお、2026年4月期第3四半期以降は、忘新年会需要や行楽需要等による売上高の増加に加え、外販事業の価格改定の効果が反映される見込みであることから、営業利益は回復すると見込んでいるため、現時点では、2026年4月期通期の連結業績予想について変更はございません。

今後、修正が必要になった場合には速やかに開示いたします。

以上